

Mi tercer sitio, Argentina

Mayo cordobesa

¡Hola! Soy Mayo. Mucho gusto. 私は某精密機器メーカーで開発職に就いている、アルゼンチン大好きリケジョです。2015年の初訪垂以来、毎年アルゼンチンに「帰って」います。この度、ご縁がありまして、私が見たこと・感じたことを皆さまにご紹介する機会をいただきました。私の目を通して見たアルゼンチンを一緒に楽しんでいただけましたら幸いです。それでは、¡Vámonos!

☆憧れのアルゼンチンへ！

2015年9月4日の朝8時。フランクフルト経由で羽田から28時間、ついに憧れのアルゼンチンに入国しました。間もなく春を迎えるブエノスアイレスは、澄み渡った青空とキーンと冷えた空気に包まれてキラキラ輝いていました。

中学1年の地理の授業で「南米」を習って以来、(もしかして前世はここに暮らしていたんじゃないかしら?)と思うくらいに、日本から遠く離れた国々の文化や景色に懐かしささえ覚えるほどの強い関心を持った私は、南米旅行を人生における目標の1つに設定したのです。南米に対して熱い思いを持ち続けたまま月日は流れて社会人になり、今の会社に転職すると、何と！勤続10年毎に2週間の慰労休暇がもらえるというではありませんか！人事制度の説明を聞きながら、「南米行きは2015年」と決めました。

南米大陸にはたくさんの素敵な国がありますが、これまた高校の地理で習った「日本のアンチポデス(対蹠地；地球の反対側)」であるアルゼンチンを行き先にしました。このときはまだ漠然と「2015年・南米の旅」くらいにしか考えていなかったのですが、いよいよ2015年になるとシルバーウィークに慰労休暇を付けて約3週間の旅程を確保できたので、せっかくならツアー旅行ではなく現地の生活を体験したいと思うようになり、(そうするとホームステイだな→ホームステイするにはどうしたらいいかな→語学学校だと外国人ばかりだしなあ→そうか、ボランティアだ!)とひらめいて調べたところ、イギリスに本拠地を持つボランティア団体の活動国にアルゼンチンが含まれていて、日本にも事務所があることを知りました。その団体にお世話になって、Buenos Aires から飛行機で北へ約1時間のところにあるCórdobaという街にて(わずか2週間ですが)ホームステイをしながら児童養護施設でボランティア活動することにしました。こうして、四半世紀を越える「南米へ行く」という夢を叶える準備が整ったわけです。



(ブエノスアイレスの、とある広場にて。)

☆ところ変われば・・・

ホストファミリーは、Nena というニックネームの小柄でかわいらしいおばあちゃんでした。数軒隣りには、娘の Alejandra、孫の Nacho と Flor が住んでいます。Nena はこれまでも世界各国からホームステイを受け入れています。日本人は初めてだったので、「生活習慣とか全く違うだろうから実は不安だったけれど、すぐ慣れてくれて安心した。」と、少し経ってから聞きました。

私はどのような環境でも割とすぐ馴染んでしまいますし、Nena や Alejandra 達の温かいサポートを受けて大抵のことには不自由を感じず、日本の正反対に位置する異国での生活を楽しんで過ごしていましたが、唯一なかなか慣れなかったのが「食事の時間」です。6時半頃に朝食、12時に昼食、19時半頃には夕食を摂ることが当たり前になっている私の身体には、アルゼンチンでの9時頃の朝食・14時頃の昼食・21時頃の夕食というリズムが苦痛でさえありました！（笑）

日本では何時にどのような食事をするのかを聞かれたので、一般的な時間とメニューを答えると、まず、「朝からそんなに食べるの?!」と驚かれ、「朝にたくさん食べたのに、お昼もそんなに食べるの?」「え〜っ、夜はもっと食べるの??」「そんなに食べるのに太らないのは、日本人はたくさん働くからなんだね。」など、とにかく驚かれました。私からすると、日本人より体格がいいのに思っていたより少食なアルゼンチン人が、食事時間の間隔が長くて辛くないのかが非常に不思議ですが・・・。

※よく考えると、日本の食事時間より2時間ずつ遅いだけなのですね。時差ボケはすぐ直りましたが、体内時計の正確さたるや恐るべし！

ホストファミリーとの思い出や、実際に現地での生活を通して経験したことは、またの機会にお話ししますね。



私の Córdoba の家族です。

犬 (Totá) を抱いた Nena から反時計回りに Alejandra, Flor, Mayo (私)

☆地球の反対側で考えさせられたこと

経済状態も、社会的なインフラも、日常生活の便利さも、絶対に日本の方が良好なはず
です。しかし Córdoba の人々はみんな笑顔なのです。お店に入れば必ず「¡Buen día!
(おはよう!)」とか「Hola, ¿cómo te va? (やあ、元気?)」とにっこり微笑みかけてく
れるし、初対面の東洋人である私にも笑顔で besito (右の頬をくっ付ける挨拶) をして、
「アルゼンチンはどう?」「アルゼンチンは気に入った?」など話し掛けてくれます。ま
た、バスにお年寄りが乗ってくると車内のほぼ全員が立ち上がり、「さあさあ、ここに座
って!」「こちらへどうぞ!」という具合に、我先にと席を譲ろうとする光景は日本では
見られるものではなく、感動しました。

ー幸せって何だろうー

ずーっと憧れていて、やっと行けたアルゼンチンで強く感じたことです。生活の豊かさ
や便利さ、収入の多い少ないではなく、もっと人間として大切なこと。日本人は、「心の
豊かさ」が足りていないのかも知れないな・・・Córdoba の人々の笑顔から考えさせられ
ました。

児童養護施設という特殊な環境にも子供たちの笑顔があふれていました。しかし、もち
ろん笑顔だけではなく辛い現実もあり、ここでも私は大切なことを学びました。次回は、
そんなボランティア体験についてご紹介しましょう。

¡Hasta luego, chau!